

法話会の ご報告

布教師 西室院、田中昭寛僧正様
場所 寿楽院

参加者 120名

阪神大震災の被災で寺が倒壊して再
建までと、病の母を介護した話

まず、おさづけを受け、続いて高野山真言宗管
長和田有玄座主のお言葉(下の写真)を頂き法
話が始まりました。師は、平成十年に来県し今
回は二度目の巡回である。平成七年一月十六日
兵庫県南部地震いわゆる 阪神大震災で寺が倒
壊し、幸い家族を無事救出したが厳しい生活が
続いた。特に三ヶ月の間水道が使えず、大勢で
使うトイレがすぐつまり、校庭中うんちだらけ
だった。あらためて水のありがたさを痛感し
た。また、亡くなった人が多かったので棺桶が
無く、段ボールや毛布で火葬場へ、そして骨壺
も無く、どんぶりに収骨した。檀家の八割が被
災している中で寺を再建したので心労があつ
た。このような想像以上の出来事が語られ悲惨
な情景が目につく。一方若いときのお話
で、優しく育て上げてくれた母が、パーキンソ
ン病で不自由になった。六十二歳で発病し二年
後に亡くなり、その間、父と母と私の三人暮ら
しだったので母に代わり炊事や洗濯をして母
の介護をした。ある時、思うようにならない母
に手を挙げてしまった事で大きなショックを
受けた、友人の言葉でやっと気持ちの切替がで
きた。今の時代は忍辱(我慢)したり堪え忍んだ
り)しなくても間に合う時代になっている。し
かし、家庭から、忍辱のころ、合掌の姿は人
の最も美しい姿であることを伝えていかないと
取り返しのつかないことになるのではない
でしょうか、と締めくくった。

福島氏撮影 平成14年9月9日



法話会の風景

心を静めて考えてみよう

無^む辺^{へん}の生^{しょう}死^じい^いかん^{かん}が^がよく^{よく}断^たつ^つ。
ただ^{ただ}禅^{ぜん}那^なと^と正^{しょう}思^し惟^いのみ^{のみ}有^あつ^つて^てす^す。

数限りもないほど生まれたり死んだりすること
を繰り返している私たちが、この迷える生死
を、どついたら断つことができ、真実な生命に
生きる生死となることができるのであろうか？
それには、心を静める禅定によって、静寂な心境
に到達し、正しく思考する智慧によって、妥当な
判断と行動をとって進む、生活があるばかりで
ある。

「果てしない苦悩の根を断つことのできるのは、
ただ瞑想の静寂な心と、正しい智慧とである」
精神統一の瞑想によって、明るい智慧の正しい判
断が生まれてくるのである。

心が静まると、その静かな心境から、正しく筋道
を立てて考えてみる事ができて、それが人間に
とって実は救いにつながるのである。

大事に当たっては、仏壇の前に座って心を静め
て、正しい判断がおりるようにすることが先決で
ある。

したがって心を落ち着かせる禅定と、正しい方
向を見定める智慧は、日々に必要な幸せへの
“道しるべ”である。 空海百話より



空海の言葉 シリーズ